

令和7年度農林水産省行政事業レビュー公開プロセスの結果
海岸事業（農地）
＜取りまとめコメント＞

【論点1「海岸事業（農地）において、既存の海岸保全施設の点検・診断結果に基づいて、施設の補修・補強の要否を判断し、既存施設の有効活用や長寿命化を図っていることをロジックモデルの中で表現できないか。」について】

- ロジックモデルの中で、既存施設の有効活用や長寿命化を図っていることをある程度表現できていると考える。ただし、それらが指標に十分に反映されているようには思えなかった。
- 長期アウトカムで短期アウトカムの結果として目指す成果が整理されており、施設の補修・補強の要否を判断するための基準は一定程度整理されているものと認識している。また、長寿命化も維持管理コストの縮減という視点で整理されているものと認識している。目指す状態などをより具体化する必要がある場合には、適宜具体化等を行い、ロジックモデルに可能な範囲で反映することが考えられる。
- 施設整備事業ではあるものの、現状や課題をよく踏まえ、現場における日々のオペレーションの状況把握などもアウトカムに織り込まれており、モノとヒトの組み合わせによって実現していく政策効果発現の経路が適切に表現されている。特に、詳細なロジックモデルについては、一連の検討を通じて、担当部局におけるあらためての気づきや学びもあったと聞く。これも大いに評価したい。
- アクティビティの長寿命化計画の策定については長寿命化計画の策定地域割合や、いずれはライフサイクルコストの低減地域割合など、何らかの指標化も検討の余地があるのではないかと考える。

【論点2「海岸事業（農地）のロジックモデルを整理したことで、どのような成果が得られたか。また、得られた成果について、今後、どのように事業に活かしていくのか。」について】

- 整備率や対策実施率といった指標について、「実施した、実施していない」という指標だけでなく、本事業のアウトプットや短期アウトカムとされる「省力化・効率化」や「施設の更新・維持管理コストの縮減」を反映した指標の採用を検討することも考えられるだろう。たとえば、海岸保全施設のライフサイクルコストの縮減効果、長寿命化による耐用年数の伸びなどを用いることはできないだろうか。
- ロジックモデルの整理はPDCAの”P”の整理であり、政策がどのように政策課題の解決に繋がるのか（目論見）を丁寧に整理するものであり、その整理が進んで

いる状態と認識している。目論見が十分に進んでいるため、今後の改善方策の検討やマネジメントの在り方の検討などができる状態である（見える形で仮説を整理することの難易度は高いため、整理していること自体が重要な点である）。

- 過去のリスク事例を踏まえた対応（原則の提示、ガイドライン等）も大いに評価できる。この現場における周知および運用状況、さらに今後は、リスクの兆候を見出し、必要な改善を促すきっかけとなる現場レベルのインシデントの把握が進められれば、さらなる改善も見込めるのではないか。ここまで丁寧に検討、実践されているので、次なるチャレンジとして検討されたい。

【その他】

- 指標④について、目標値が100%であるのに対して、成果実績は87%のまま推移している。最終目標年度に100%を達成する見込みはあるのだろうか。仮に目標値が非現実的な値となっているのであれば、目標値の修正が必要だろう。
- 長期アウトカムについては、事業実施地区の農業経営の継続率などの成果指標を採用することも考えられるのではないか。
- 共通的な様式への落とし込みまでの経緯も含めて、政策の仮説・目論見を整理するという取組の参考になる取組の一つと考えられる。
- こうした優れた取組みは省全体にも共有されたい。
- 外部要因として整理している気候変動については、気候変動の影響やそれに関わる検討の熟度に応じてアクティビィの一つとして明示的に整理していくことも考えられるのではないか。